

「引き揚げ」の記憶を次世代へ

引揚記念館に展示・保管している海外からの引き揚げやシベリア抑留などに関する約1万2千点の資料の中から、今回紹介する資料は「水筒」です。

水は人間が生命を維持していくために最も欠かすことのできないものです。しかし、冬のシベリアでは、空腹のときに冷たい水を飲むと体を芯から冷やし命取りになることもあったようです。

極寒のシベリアの地では水筒の水さえも凍りつき、そのような場合には焚き火やペーチカと呼ばれる室内の暖炉で暖めて溶かしました。時には温まった水筒を懐へ入れて湯たんぼのように使用したことも多くの手記に記されています。

当館に所蔵されている水筒の中には、中央アジアで抑留された人の水筒もあり、「真夏の炎天下の砂漠では水筒にその命を救われた」との証言が残されています。また、水筒の多くは抑留される以前に満州などで支給されたものが多く、一般兵士用からふた付きの将校用のもの、珍しいものでは赤十字のマークが入った従軍看護婦が使用していたものや水筒の水を保温するために毛皮で包んだものまでさまざまです。満州からの引揚者は「何よりも水が必要



であったため大変高価だったにもかかわらず水筒を購入し日本に着くまで頑張った」と証言しています。

水筒はのどの渇きを潤すだけでなく、暖を取る道具としても使用され、苦難の中でも懸命に生きようとする姿を見ることができます。

【「極寒！シベリア展」を開催中】

想像を絶するシベリアの冬の寒さをテーマにした企画展を開催中。抑留体験の手記などに記されたシベリアでの防寒の様子を再現。今回紹介した水筒やこれまで紹介した資料も展示しています。

【日時】3月31日（日）まで。

9時～17時（入館は16時30分まで）

【入館料】300円（学生150円）市内の学生は無料

▶詳しくは、引揚記念館（☎68・0836）へ。

広げよう人権の輪 ～ お互いが支え合う社会に ～

- 子「今日、学校でアイマスク体験の学習をしたよ」
 父「どうだった」
 子「何も見えなくて、一人では歩けなかったよ。友だちが誘導してくれたけど、グイグイ引っ張るから怖かったよ」
 父「目の不自由な人を誘導するときは、どうすればいいのかな」
 子「一緒に歩くときは、杖を持っていない方の手で僕の肩や肘を持ってもらって、僕が半歩先を歩くと安心して歩くことができるんだって。それと白い杖の人を見かけたら『何かお手伝いしましょうか』って声をかけることも教えてもらったよ」
 母「その人が困っている様子だったら声をかければいいんじゃないの」
 子「でもね、目の不自由な人は周りの様子がよく分からないから、この一言がとても心強いんだって。そして、白い杖には目の不自由な人が周囲を確認することと、周りの人にも注意してもらうことの2つの役割があるんだよ」
 母「知らないことがたくさんあるのね。お母さんも白い杖を持っている人を見かけたときには声をかけてみるわ」

人は目からたくさんの情報を得て生活しています。その情報が十分に得られないとしたらどうでしょうか。目の不自由な人は、目から入ってくる情報の代わりに耳や鼻、手足などを使って不足した情報を補っています。

例えば、歩道の点字ブロックは、目の不自由な人に道路の方向や停止位置などを知らせる大変重要なものです。その上に自転車や自動車を停めれば、目の不自由な人にとって歩きにくいだけでなく、大変危険なものとなります。

現在、市内には、さまざまな障害のある人が約5,000人生活しています。障害のある人が普通に暮らすことができる社会にするためには、まず相手の立場に立って考え行動することが重要です。障害のある人もない人も、お互いを思いやる心を大切に、支え合うことで、誰もが暮らしやすい優しい社会を築いていきましょう。

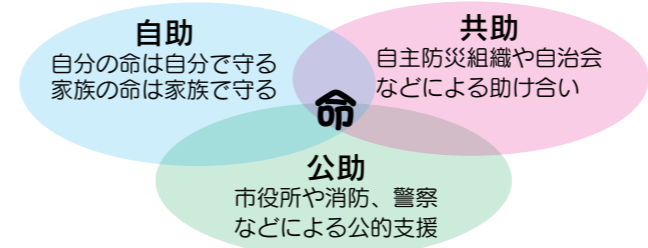
※「アイマスク体験」…アイマスクを使って目の不自由な人の疑似体験をするもの。

《人権啓発推進室》

防災ひとくちメモ

～自分たちの地域は自分たちで守る～

地域で自主防災組織を結成・強化し、「自助」「共助」「公助」の取り組みでみんなの「命」を守りましょう。



【自主防災組織】地域の実情に合わせて「自分たちの地域は自分たちで守る」という心構えのもと、自治会などの単位で自主的に防災活動を行う組織

【自主防災組織の役割】

◆平常時…地域内の安全点検、防災知識の普及・啓発、防災訓練など

◆災害時…救出救助、避難誘導、初期消火、情報の収集・伝達、避難所の管理・運営など

※あくまで取り組みの一例ですので、できることから始めてください。

▶詳しくは、危機管理・防災課（☎66・1089）へ。

リッティの 二つの「お正月」



国際交流員の孫立姉です。

今年のお正月は新暦でいう2月（旧暦の1月）なので、中国人である私にとって、日本のお正月は「新年」という感覚があまりありませんでした。とはいえ、今年は友人の誘いで楽しい日本のお正月を過ごすことができました。

日本には、新年を迎える準備としてすす払いや年の瀬市があり、これは中国でも同じですが、中国では除夜の鐘の代わりに、爆竹を鳴らして疫病などをはらいます。夜には、年越しそばの代わりに家族そろって「餃子」を食べます。これは、餃子に具をいっぱい入れると財産が増えると言われているからです。また、中国には門松や鏡餅の代わりに、おめでたい文字が対句で書かれた赤い紙と「福」と大きく書いた紙を縁起物として家に貼る風習があります。日本と中国のお正月の行事は習わしこそ違えど同じ発想に基づくものが多いと感じました。

大連では、旧暦の1月2日～8日に、「花火爆竹迎春会」が開催されます。空に鳴り響くドラや太鼓の音、東北地域特有の田植え踊りや獅子・竜の舞や打ち上げ花火など、まち全体がにぎわいに包まれます。機会があれば、ぜひ大連で旧暦の年越しを経験していただきたいです。《みなと振興・国際交流課》

災害時の住民避難にかかる輸送 12事業者と協定を締結

災害などが起こった際、大多数の住民避難が必要となった場合に、安全かつ迅速に避難が行えるよう市内交通関係の12事業者と「災害時・緊急時における住民避難の協力に関する協定」を締結しました。

関西電力㈱高浜発電所のUPZ（緊急時防護措置を準備する区域：概ね30km²までの範囲）に全市域が含まれ、市民が避難する際に重要な輸送手段となるバスやタクシーなどの交通機関の協力が必須であることから、必要な体制を強化するため協議を進めてきたもの。

協定を締結した事業者は次のとおりです（順不同）。

【バス】◆京都交通㈱舞鶴営業所◆㈱コスモ観光

【バス・タクシー】◆日本交通㈱◆京都タクシー㈱

【タクシー】◆尙慶和（ふく福タクシー）

【自主運行バス】◆岡田上バス運行協議会◆池内バス運行協議会◆岡田中バス運行協議会◆西大浦協議会◆青井校区協議会◆杉山・登尾協議会◆多門院協議会

▶詳しくは、危機管理・防災課（☎66・1089）へ。

くらしの豆知識⑤

詐欺的サクラサイト商法

「相続税対策のために、自分の財産のうち800万円を受け取ってほしい」というメールが携帯電話に届いた。メールの中のアドレスをクリックすると、ウェブサイトのメール画面へ移動した。そこで、「現金を渡すには、ポイントを購入してメールのやりとりをしてほしい」と言われ、ポイントを購入し続けて、数十万円を支払ったが一向にお金はもらえなかった。

あなたの身近に、こんな経験をした人はいませんか。ウェブサイト業者に雇われた“サクラ”がさまざまな人物になりすまし、有料サービスを利用させる事例が増えています。

「お金をあげる」「簡単に高収入」などとメールをしてくる人は、本当に実在するかどうか分からないため、安易に信じることは危険です。また、消費生活センターの相談事例で実際にお金をもらえたという話はありません。トラブルにあったと感じた場合、可能な限りメールの画面を写真に撮るか印刷して、すぐに最寄りの消費生活センターに相談をしましょう。

▶詳しくは、市民相談課（☎66・1006）へ。

